

木をたたえる詩

ねらい 木をじっくりと観察してその特徴を言葉に表し、詩を作ることによって、木（自然）に親しみを感じてもらうこと

時間 30分

場所 雑木林、公園、木が多く生えているところ

人数 5人以上

季節 いつでも可

用具 筆記用具、紙

手順

■ルールは、鬼ごっこと同じです。

1. 5人前後のグループを作り、グループで気に入った（おもしろい・すばらしい）木を探す。
2. グループで決めた木をじっくり観察する。
目で見える、耳を当てて聞く、匂いをかぐ、触って手触りを見る、など。
3. その木を形容する言葉・表す言葉をひとり人2つ出す。
例) ざらざら、スポンジみたい、さみしそう 等
4. グループ全員の出した言葉を全て使い、その木をたたえる詩を作る。
5. 全員で木を眺めながら、詩を朗読し、発表する。

ポイント

形容する言葉の数が多すぎると、詩全体を楽しめなくなるので注意する。小・中高生は7～8個以内にとすると楽しめる。

木を観察したり、森の中でゆっくりたたくようなアクティビティの後に行うとさらに効果的である。

